

三浦市立三崎小学校

研究テーマ:『「三崎とつながり、世界とつながる」～言葉を介して他者と「関わり合う力」の育成～』

1 実践の目的

本校の児童は、相手と親しみをもって関わるのが得意な子が多い。一方で、相手の言葉を受け止めて、他者と合意形成を図ることが苦手な児童が少なくない。そこで、他者と気持ちや考えを共有しながら、言葉を介して、人間関係を形成できる児童の育成を目指して、研究テーマを『「三崎とつながり、世界とつながる」～言葉を介して他者と「関わり合う力」の育成』とした。児童が他者とよりよく関わるができる能力の獲得を目標としている。

2 実践の内容

本校の学校研究は、関わり合う力を育成するために「生活科・総合的な学習の時間」と本校独自の「グローバル表現科」の2つの取組から成り立っている。

三崎小学校の魅力を知り、自分たちの郷土愛を高める地域学習を「生活科・総合的な学習の時間」で取り組んでいる。郷土愛を高めることで、児童の自己肯定感、コミュニケーション能力が高まると考えている。

一方で、国際交流を中心とした取組では「グローバル表現科」において、多様な国の人と交流できる力を高めている。国際的な交流を通して、文化的な差異を認め合い、相互に尊重し合う態度やその方法について研究している。

特に、今年度は、台湾とのオンライン交流の授業を市内小学校に公開することとし、国際交流に重点を置いて取り組んできた。具体的な実践は以下の通りである。

【生活科・総合的な学習の時間】

生活科・総合的な学習の時間では主に以下のような地域学習に取り組んできた。

○1年生

三崎の例大祭について調べ、年度末の学習発表会で学んだことを発表した。

○3年生

三崎のマグロについて詳しく調べ、学んだことをリーフレットにまとめ、地域の各お店にそのチラシを置いてもらうようにした。

○5・6年生

長年学校のシンボルとして大切にされている「五常の松」や三崎の観光地の一つである「三崎宿」について調べ、学習発表会で学んだことを発表した。



1年生
学習発表会の準備

3年生
市場見学



6年生
三崎宿見学

【グローバル表現科】

今年度で3年目となるグローバル表現科。日々の学習だけでなく、市内の小学校の先生方に向けた公開授業研修会の準備に力を入れて取り組んできた。

○ALTによる授業「ブルックタイム」

三崎小常駐のALTによる授業。英会話だけでなく、オーストラリアの文化を紹介してもらい、国際理解教育を推進してきた。

○多様な国との交流

今年度はアメリカのテキサス大学の学生との交流や、中国の小学校と交流をした。それぞれ自己紹介をしたり、体験を通して交流を楽しんだりした。台湾の小学生が、日本の小学校生活を体験しに来るなどの交流もあった。

○オンライン交流について

これまで、香港の小学校と台湾の小学校と継続して交流を続けてきた。特に今年度は、台湾の小学校とのオンライン交流の様子を市内に公開することとし、準備を進めてきた。

台湾とのオンライン交流において「友だちになる」ことをねらいとし、互いの名前や好み、文化の違いを伝え合うことを通して、相手のことを知ろうとしたり、自分のことをもっと知ってもらおうとしたりする意欲

を高めることを大切にした。

3 実践の成果と課題

上記の取組の成果としては、生活科・総合的な学習の時間で町探検、発信活動などの体験をもとに三崎への愛着を高めることができたこと、グローバル表現科での国際交流を通して、「通じ合えた」実感を生み、英語をコミュニケーションのツールとして使おうとする意識が向上したこと、相手とつながろうとしたり、相手やその文化を尊重したりする態度が育ってきたことが挙げられる。

課題としては、各活動の目的(なぜ行うのか)の意味付けをより明確にし、地域学習と国際交流の関連性を整理して、体系化すること。また、学年間の系統性を大切にするために、交流を単発で終わらせず、継続的な学びとして設計すること。さらには、年間の見通しがもてるように行事を精選し、ねらいに沿った交流の計画を立てる必要があることが分かった。

4 今後の展開

引き続き、グローバル表現科を続けることもあり、研究テーマについては次年度も引き継ぐ予定である。

公開授業研修会のための準備を通して、本校の中でもグローバル表現科についての手立てや取組の意義について理解が深まった。一方で、英会話能力における一定の成長や、グローバルな表現力を伸長するための手立てについては今後も研究を深めていく必要がある。今後とも、地域を大切にすると、どんな人とも関われるコミュニケーション能力＝「関わり合う力」の育成を進めていきたい。